

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和五年五月度 入賞句一覧 投句数 六百六十九句



特選

大垣 武直 選

ため口で子らと話せる蝌蚪の池

東京都武蔵野市 伊津野 均

ため口というと、下位の者が上位に対等の立場でものを言い、その口のきき方も無礼なことを思う。  
この句は逆に大人が子供と同じ立場になり、純真無垢な状態で会話ができた喜びを表現している。おたまじゃくしが作者を童心にしてくれた

峠茶屋初夏の香りを売りさばく

東京都狛江市 椎野 一恵

峠の茶屋で売られている初夏の香りとは何だろう。新茶・筍飯・豆飯・粽・柏餅それに蚕豆・豌豆・木苺・露・筍。名前を聞いただけで食べたくなる。新緑に囲まれた茶屋で一休みして買物をする。とても気分が良い。

柏餅背丈の記し薄くなり

大垣市 安田 むつこ

この句から、老夫婦が二人きりで柏餅を食べながら、成長した孫たちの話をしている様子が浮かぶ。小さい頃は毎年帰省して、年中行事のように背丈を測り、柱に記したものだ。  
今はもう背丈を測ってやることもない。一抹の寂しさも感じられる。

秀逸

ちぎられて風の形に春の雲

本巢市 小泉 裕子

先づは湯を沸かしてをりぬ花疲れ

東京都新宿区 花澤 ちいこ

声も軽やか登壇の新入生

揖斐郡揖斐川町 田中 芳江

壺焼の匂ひ追ひ来る宮の礎

大垣市 宇佐美 昭子

蟪蛄の湧き上がる如生まれけり

不破郡垂井町 北村 廣美

一杯の秘蔵の酒に春惜しむ

愛知県名古屋市 岩田 遊泉

手をひろげ春野駆け来る子を抱っこ

長野県東御市 藤田 さよ

細切れの記憶の土間やよもぎ餅

愛知県豊田市 城山 悠水

春愁のキリンは首を持て余し

福岡県福岡市 大津 英世

薔薇の香や客席降りのプロローグ

滋賀県大津市 近江 董花

入選

一雨の分だけ草の青みをり

岐阜市

廣瀬 あや子

春野菜所狭しと屋敷畑

愛知県額田郡

平松 京師

葉桜の木洩日ふみて乳母車

福井県敦賀市

山田 美千代

春シヨール卒寿の母を包みをり

東京都新宿区

花澤 ちいこ

名を告げて公園デビュー風光る

大垣市

傍島 豊子

轉りやパンのおいしい喫茶店

養老郡養老町

松永 智志

通過する小さき駅舎の遅桜

大垣市

宮脇 和子

大麦秋美濃も尾張もひとまとめ

愛知県名古屋市

後藤 春子

春の女神舞ふ山里の空は蒼

揖斐郡揖斐川町

山田 小夜子

一村が園さながらや桃の花

岐阜市

花川 和久

夏祭子の目が捉ふ飴細工

大垣市

村田 通夫

春光を回す秒針花時計

大垣市

新町 恵子

野仏の笑む口元のうららけし

不破郡垂井町

西田 厚堂

おにぎりの矢印へ剝く花の下

東京都世田谷区

関戸 信治

よもぎ餅先ずは香りをいただきぬ

滋賀県甲賀市

奥村 僚一

鏡台に秘密の小箱万愚節

各務原市

桑原 緑

一服を花冷えの手にいただきぬ

兵庫県加古川市

戸田 ミツヨ

歩くほど影はつらつと夏館

東京都中野区

庄司 直也

やや老いた友の背中や花吹雪

東京都府中市

長嶋 佐渡

飛花落花書いては消して初投句

本巢市

土川 みどり

一般の部

選者吟

「よっ」と一声ありて 動き出す

武 直

